

平成28年度 学校自己評価システムシート（秋草学園高等学校）

目指す学校像	「礼節」、「勤勉」、「協調」の精神を涵養し、「愛され信頼される女性」を育成する学校。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 挨拶の励行、自然に親しむ心の醸成、道徳心の育成を通じ、建学の理念の具現化を図る。 「学習の習慣化・授業の充実」を通じ主体的に学ぶ楽しさを身に付けさせる。 生徒募集・広報活動への全員体制での取り組みと、生徒の進路希望を叶える指導を実現する。 教職員の意識改革・学校改革を推進し、よりよい秋草学園の創造を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学校関係者	4人
事務局（教職員）	3人

学校自己評価							
年度目標				28年度評価（3月31日現在）			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ol style="list-style-type: none"> 心を込めた挨拶をかかわせるようにするため、まず挨拶することを定着させる。 清掃・整理整頓を徹底させ、さらに校内美化や草花への関心を高めさせる。 建学の理念及び礼節・勤勉・協調の具現化をはかり、本校の特色が発揮できるように教育活動を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 心のこもった挨拶ができていますか。 校内の美化や草花への関心の高さはどうか。 建学の理念を理解し、そのことに基づく行動ができるか。 愛校心が育っているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 毎朝、教職員や生徒が校門に立ち、心を込めた挨拶をする。 授業や集会などの始めと終わりにしっかりと挨拶をさせる。 全員、体育着に着替えて清掃を行う。 校内で花を育て鑑賞する。 礼節・勤勉・協調の精神を常に訴える。 式及び集会で学園歌の指導を徹底する。 	<ol style="list-style-type: none"> 教職員が毎朝校門に立ち、生徒と元気に挨拶を交わしているか。 挨拶が定着したか。 清掃に全員で取り組んでいるか。 常に花のある環境を整備しているか。 教職員が三つの精神に基づいた指導を行っているか。 学園歌を機会あるごとに歌唱しているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 全教職員・係生徒で取り組みができた。多くの生徒が元気な挨拶ができた。 授業時の挨拶、集会での挨拶、また校内での会釈や挨拶も定着している。 清掃の時間は係全員で清掃に取り組めた。 校舎内は風紀厚生委員の生徒と係りの教員が、灌水などの花の手入れをしている。 三つの精神は徐々に広まり、生徒の言動・生活態度に現われている。 学園歌を通して、愛校心は着実に育っている。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 全員の生徒が常に笑顔で挨拶のできる環境にする。 全クラスが教室の整備整頓ができるようにする。 教職員が建学の精神に対して共通理解の徹底を図る。 言葉遣いの見直しを図る。TPOにあったマナー・言葉遣いの指導を徹底する。
2	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力の強化を行う。 授業改善生徒に質の高い授業を提供する。 生徒の自主性を育てる取り組みを行う。 AL型授業を推進することにより、生徒に主体的に学ぶ楽しさを身につける。 中途退学者の数を減らすようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ベネッセのGTZを通して基礎力が定着しているか。 授業態度・宿題の提出状況、定期考査により判断する。 授業アンケートや外部評価を利用して判断する。 生徒が授業に積極的に取り組んでいるか。 退学者数より判断する。 	<ol style="list-style-type: none"> 基礎学力講座を開講する。タブレットを使ったICT教育を推進する。 授業研究仲間において、教科内・教科を超えての授業研究。また、研究会等を通して授業力を向上させる。 生徒による授業評価を活用する。 講習・補習を充実させる。 部活動への積極的な参加を促す。 日々の生活指導で生徒にきめ細かな対応をする。長期欠席者等には家庭との連絡を密にし、関係機関とも連携する。 	<ol style="list-style-type: none"> 教員の授業に対する取り組み状況、授業観察や面談、模試等より判断する。 生徒による授業評価や教員間の授業研究・教科会を利用する。 講習・補習への取り組み姿勢を観察する。 生徒の取り組み状況を見極める。 退学者数や欠席状況等より判断する。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業については、コースにより授業態度等に違いが生じている。授業内容・進度等のチェックと改善の必要がある。 約7割の生徒が授業には満足。AL型の授業等を展開し、ICT教育を推進した。 学力不足の生徒を対象にOne Up講座を開講し、フォローしている。 自主性が育っており、中心になっている生徒の成長の様子を行事を通してうかがえた。 長期欠席者の家庭との連絡が取れないケースが多くなった。 退学者は8人となり、昨年度(4人)より倍加した。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 教員はさらに授業研究を重ね、授業の質の向上をめざす。生徒には予習復習を徹底させ、学ぶ意欲を高める。 授業アンケートをうけ、教科担任が授業改善に努める。 さらに生徒の主体性を促す取り組みを強化する。 家庭との理解を深め、外部機関の活用も視野に入れて指導にあたるようにする。 退学する生徒の中には友人とのコミュニケーション不足によるものもあり、コミュニケーション能力を高める対策を図る。
3	<ol style="list-style-type: none"> 塾や中学校訪問を強化し、オープンスクール・学校説明会・入試相談会への参加者を増やし、入学者増へと結びつける。 進路実績を高め、生徒・保護者や中学生から期待と信頼を得られるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 本校へ来校する中学生数を増やす。次年度の入学人数を300人に近づける。 国公立5人、GMARCH 10人以上、生徒の進路決定率を9割以上に上げる。 	<ol style="list-style-type: none"> 塾や中学校との連携を強化する。 S部活動奨学生を新設する。 来校する中学生や保護者に対して本校のおもてなしの心で本校の魅力伝える。 授業を充実させ、学力向上を図り、入試方法の研究をすすめ、進路実績を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 本校への入学人数を300人にする。 国公立 5人、早慶上理3人、GMARCH 15人、成成国武明学20人、日東駒専 20人の合格者を出す 進路決定率を9割以上とする。 	<ol style="list-style-type: none"> 入学者は244人で、（昨年度減21）幼保コース入学者が大幅に減った(17)。 全教職員が入学者増に向け積極的に取り組む姿勢が伺われた。 国公立大 3人（埼玉大学1人、埼玉県立大:2人）、早慶理2人(早1・理1)、GMARCH 9人（明大4・青学1・立教1・法政2・中央1）、成成国武明学9人(成蹊1成城2国1武4明学1)日東駒専 21人(日3東10駒4専4)であった。4大進学者114人(47%)、進学実績を向上させるための工夫をさらに図る。 98%の進路決定率であった。短大との連携も含め、さらに内容を充実させたい。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 募集人数の見直し・バス運行の見直しを行う。 各コースの特色を生かしたツールおよびコース別説明会をさらに充実させる。 15歳人口の動向を調査し、募集地域の拡大を図る。狭山市・入間市の地盤沈下を食い止める方策を行う。 基礎学力の定着、学力の向上を図り、進路決定率が100%になるよう進路指導を徹底する。 進学講座・進路ガイダンスを充実させ、さらなる進路実績を高める。 併設校(秋短・秋専)との連携を深める。
4	<ol style="list-style-type: none"> 魅力的な教育の実践を通して、「入れる学校から入りたい学校へ」の変貌を遂げる。 人材育成や教員力向上に向け、研修を強化する。 迅速に報告・連絡・相談を行い、円滑な学校運営を構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> 本校の魅力的な教育を共通認識とし、語る事ができるか。 授業研究・生徒指導・進路指導等に積極的に取り組んでいるか。 本校の魅力を外から評価されているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 教職員一人一人が学校改革に向けて主体的に取り組む心を醸成する。 分掌・学年・個人からの学校改革の積極的な意見を取り入れる。 分掌の部長や学年主任が職務内容を把握し、組織の成長を図る。 学校改革に積極的に協力し、実現できる環境づくりに努める。 授業研究、生活指導、進路指導などに積極的に取り組み生徒に還元する。 	<ol style="list-style-type: none"> 部長や主任が関係する事案を把握しており、管理職との連携がとれているか。 組織の一員として、職務上の役割を果たしているか。 職務への取り組み姿勢に積極性が見られるか。 授業の質を高める教材研究ができていますか。生徒と向き合っているか。 生活指導や進路指導の研究を深め、実践しているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 個人で仕事を抱えることが無いよう、組織としての機能を強化し仕事の配分など改善に取り組む。 秋草学園に対する帰属意識が希薄にならないよう管理職は配慮する必要がある。 業務内容の見直し、部活動指導の見直し等を行い、時間的余裕をもって研修・研鑽ができるようにする。 	A	<ol style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談を徹底し、情報が共有できるようにする。 互いの職務を理解し、その共有ができるように、緊密にコミュニケーションをとれるよう工夫する。 変革の意義と方向性を共有し、組織で取り組めるよう努める。 業務の効率化をはかり、研修・研鑽できる時間を確保する。

学校関係者評価	
実施日	平成29年4月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ol style="list-style-type: none"> ①マナーの第一歩である挨拶が、きちんとできていて気持ちが良い。特に登下校時の正門前礼挨拶は教職員の指導のもと生徒たちが自主的に行っている姿が印象的である。 ②一般来校者に対して笑顔で心を込めた挨拶を交わしてくれる生徒が大変多くなっている。 ③入学式や卒業式など式典で生徒たちの立ち振る舞いが徹底していて女性としての仕草が大変良い。また、来賓に対する言葉づかい等、接遇についてもきちんと教育されている。 ④各種行事では、全員が一条乱れず人の話を聞く姿勢があつてとても良い。 ⑤校内整備では、花時計と多数のプランターが綺麗に整備されている。また、生徒の積極的な清掃の徹底により教室等も居心地良く過ごせる環境になっている。 	
<ol style="list-style-type: none"> ①学校をもっと活用して勉強したいという生徒が年々増えていることから、勉強スペースを更に整備し、放課後等のチューター制度(個別指導)の利用率を更に充実させてほしい。 ②昨年度から導入した「45分×7限授業」の変更により、授業に対する集中力が以前よりも増して養われるようになった。 ③学習に対して、タブレットを導入したICT教育とコミュニケーション能力を大切に目的別授業や人間力を高めるAL型授業の取り組みに積極的な教育指導にあたっている。 	
<ol style="list-style-type: none"> ①広報活動においては、各コースの魅力を最大限に活かした秋草らしいイベントを生徒募集に組み込むことが良いかと感じる。 ②狭山市にありながら近くて遠いというイメージを払拭して近隣地域を代表する学校に発展してほしい。 ③進学実績では、高レベル(国公立)の大学進学に対する進路指導の成果が出ている。 	
<ol style="list-style-type: none"> ①生徒との時間を少しでも多くとるため、業務の見直しを図り生徒の指導に時間をより多く注ぐようにしている。 ②教職員の接し方や声掛けにより「愛され信頼される女性」の育成に通じるコミュニケーション能力が生徒一人一人に現れている。 ③社会情勢の変化とともに教職員の勤務時間の軽減が必要とされる中、部活動と教科を分けた体制作りをして生徒の指導にあたってとても良いかと感じる。 	